



54  
まいん

# くるまや 車屋トンネル ものいわだけ 物言嶽トンネル



現在の車屋トンネル

## くるまや 車屋トンネル

は、下部鉄道のトンネルとして、明治26年(1893)に建設されました。延長約55.2メートル、高さ約3.8メートル、幅約6.1メートルです。

## ものいわだけ 物言嶽トンネル

は、車屋トンネルと同じ時期に同じ目的で建設されました。延長約25メートル、高さ約3.8メートル、幅約4.9メートルです。

下部鉄道のトンネルはこの他、はでぼ端出場地区のなかお中尾トンネル、ほしごえ星越地区の星越トンネルがあります。

これらのトンネルは、鉄道関係の設計技師であるおがわとうご小川東吾によるものです。



現在の物言嶽トンネル



物言嶽トンネルを通過しようとする電気機関車  
撮影年不詳 別子銅山記念館所蔵

明治22年、広瀬幸平は欧州巡遊旅行で見た鉱山鉄道を別子銅山にも導入しようと、上部鉄道と下部鉄道の路線を計画し、実行に移しました。

下部線は、明治23年から鉄道敷設用地の測量や設計を行い、翌年に建設に着手し、明治26年3月15日、2年の工期で端出場からそうびらき惣開までを結ぶ延長約11キロメートルが完成しました。総工費は205,052円でした。

また、同年8月27日に上部鉄道も総工費122,971円で完成し、これら別子鉱山鉄道の総工費を現在の貨幣価値に換算すると、100億円以上にもなります。

現在も、レンガをしっかりと積んだ重厚な姿を残し、明治期を生きた人々の息吹きを感じることができます。

※この場所への立ち入りについては住友金属鉱山(株)別子事業所の許可が必要です。

## これな～んだ？

下部鉄道沿いに延々と連なるコンクリート製のものはなんでしょう？  
(線路の枕木ではありません！)

答えは、裏にあります。



レンガが語る  
明治期の思い出

